

第4号議案

社会資本整備総合交付金(道路改築)
一般県道 はやしながのほら 林長野原線 ながのほら 長野原町

着工年度
評価理由

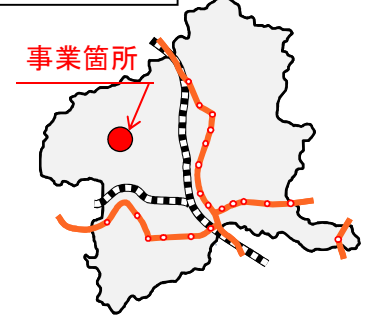
平成8年度
再評価後5年

1. 事業の目的

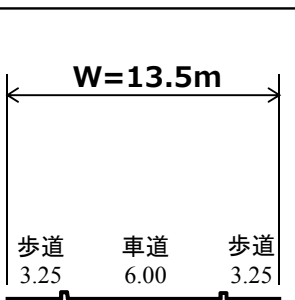
一般県道林長野原線は、やんばハッ場ダム建設事業により水没する国道145号の公共補償として整備するもので、ダム湖の南側を走る付替国道145号(ハッ場バイパス)と平行してダム湖の北側に整備する道路である。

ダム事業による公共補償に本事業を合併し、長野原町中心街と水没により移転した小中学校や代替地間のアクセス性を向上させ、水源地域住民の交通の利便性を確保することで、生活環境の改善及び地域振興を図ることを目的とする。

位置図



標準横断面図



ハッ場ダム建設に伴う付替交通網イメージ



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	ながのほら はやし <small>はやし</small> <small>ながのほら</small> <small>ながのほら</small> 長野原町大字林～長野原町大字長野原	
区分	今回	前回再評価時
全体事業費	3,222百万円	2,944百万円
全体事業費増減の理由	工法変更による増額	—
事業期間	H8～H28	H8～H24
事業内容	計画延長 3,886m 幅員 13.5m	計画延長 3,886m 幅員 13.5m

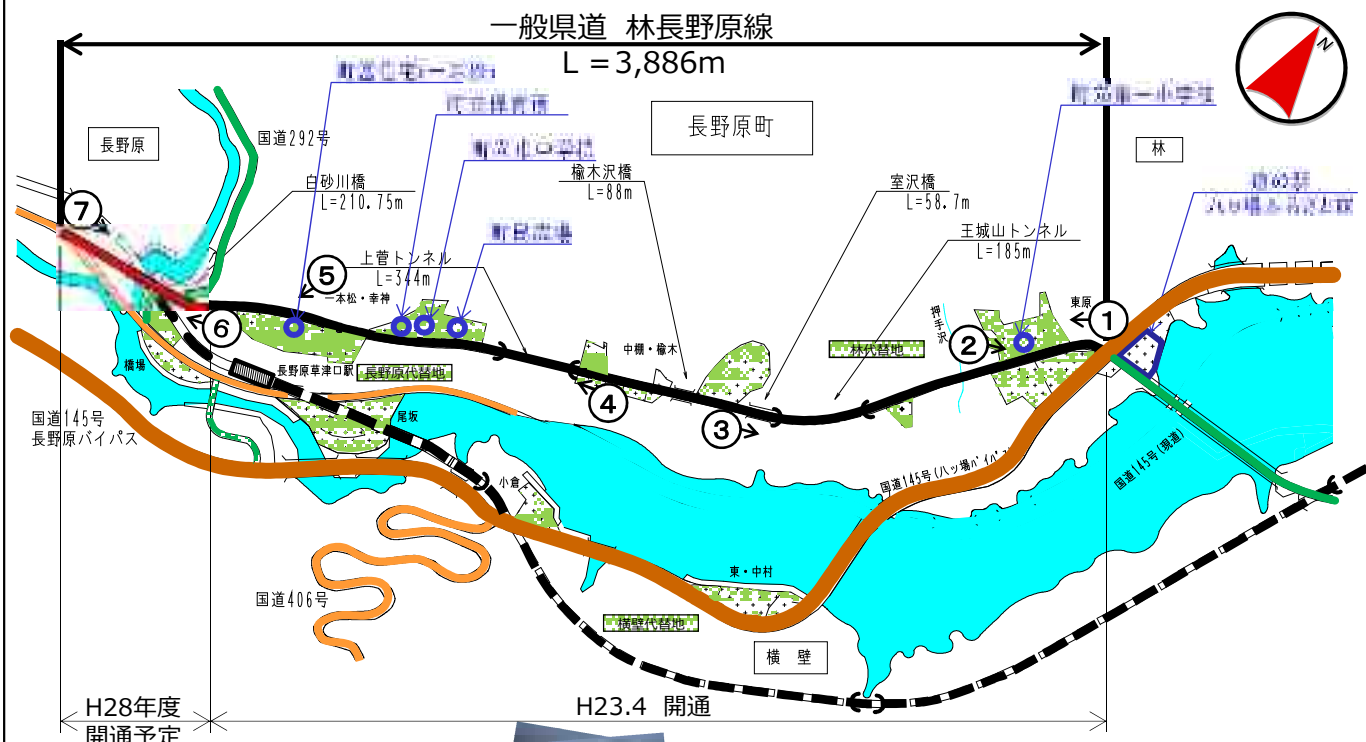
事業経緯

年度	主な経緯
H8	工事着工
H13	用地買収開始
H23.4	起点側3.3km区間 開通

進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の 進捗状況 (進捗率)
事業費	3,222百万円	3,201百万円 (99.3%)	1,948百万円 (66.2%)
用地買収	135,139m ²	135,139m ² (100%)	122,600m ² (90.7%)
計画延長	3,886m	3,296m (84.8%)	3,296m (84.8%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



凡例

	整備済区間
	整備中区間
	現道・付替道路
	代替地
	撮影位置・方向



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・本路線は、長野原町中心市街地と小中学校や代替地間のアクセス性を向上させる、地域住民の生活道路として重要な道路であり、事業の目的や必要性に変化はない。
- ・未開通区間の早期完成を長野原町や地域住民から強く要望されている。



写真：未開通区間と町中心街との位置関係

4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ・ダムにより水没する国道145号の付け替え道路であり、水源地域住民の生活道路でもあるため、目的を達成する手段としては適当である。
- ・完成区間は既に供用しており、住民の生活道路として利用されている。
- ・白砂川橋の橋台直下に埋設されている老朽化した発電用導水管の対応について東京電力と協議を重ね、工法を変更するなどにより計画どおりの線形を維持しつつ、コスト増の最小化を図った。
- ・白砂川橋の工事にあたり、JR吾妻線と近接するため、JRに施工を委託し効率化を図った。



写真：県道と町立東中学校



写真：JR吾妻線上空での白砂川橋の架設状況



写真：発電用導水管を避けた下部工構造

費用便益分析

		計画・前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月			
基準年		平成22年		平成27年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	3,217,000	91.7%	4,062,000	95.9%		
	維持管理費	291,000	8.3%	172,000	4.1%		
費用合計 (C)		3,508,000		4,234,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便益	4,233,000	91.9%	5,128,000	83.9%	道路ネットワークの変更 将来ネットワーク(前回) ↓ 事業化ネットワーク(今回)	
	交通事故減少便益	355,000	7.7%	178,000	2.9%		
	走行経費減少便益	16,000	0.4%	807,000	13.2%		
便益合計 (B)		4,604,000		6,113,000			
費用対効果分析 (B/C)		1.31		1.44			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

【不測の事態により長期化】

・ダム事業により移転する代替地を同じ地区内の高台に設ける「現地再建方式」が採用されている。移転住民の意向に沿って代替地を整備するため、代替地の造成には長期間を要する。本路線はこの代替地の造成に合わせて整備を進める必要があるため、元々が長期計画の事業である。

（用地買収の難航）

・用地の買収にあたり、墓地の所有者（110名）や神社などとの移設補償契約の締結に約4年間の不測の期間を要した。（H25年1月締結完了）

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

・ 事業計画の変更

・ スケジュールの変更

・平成26年度末時点で、計画延長の約85%となる3,296mが完成し既に供用しており、また、未完成区間の主要構造物である白砂川橋梁が平成27年度中に完成し、平成28年度に全線開通の見込みである。

本路線の開通により、中学校への通学や、長野原町中心市街地へのアクセスが容易になるなど、水源地域住民の生活環境が大幅に改善するため、一日も早い完成に努めたい。